

調査・研修等計画届出書

令和 7年 11月 10日

瀬戸市議会議長 様

議員名 臼井 淳

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和7年 1月27日から 1月28日まで (1泊2日)	
調査先・研修名	令和8年度予算審議集中講座	
会場名 (会場所在地)	東京都新宿区西新宿7丁目21-3 リファレンス西新宿大京ビル	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	○元財政課長から学ぶ ・1月27日 予算審議の入口 数字の海に溺れないために 数字の奥に隠された自治体財政の勘所 ・1月28日 鋭く突く！議員力を示す質問術 予算審議を武器に変える	
議長名の依頼	不要	依頼先 (名称)
同行者名	無し	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和8年2月2日

瀬戸市議会議長 様

議員名 白井 淳

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和8年 1月27日から1月28日まで（1泊2日）
調査先・研修名	令和8年度予算審議集中講座
会場名（会場所在地）	東京都新宿区西新宿7丁目21-3 リファレンス西新宿大京ビル
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	○元福岡市財政課長から学ぶ ・1月27日予算審議の入り口 数字の海に溺れないために数字の奥に隠された自治体財政の勘所 ・1月28日鋭く突く！議員力を示す質問術 予算審議を武器に変える
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
瀬戸市の現状・課題 本研修を終えて、自治体財政を理解するうえで不可欠な基本原則と、議会としての予算審議のあり方を再認識する。 ・人口減少と高齢化が同時進行している。 ・義務的経費の比率が高止まり。 ・公共施設、上下水道・道路等インフラの老朽化が一斉に顕在化。 ●瀬戸市が直面する本質的課題 ・総合計画や市政方針は存在するが、優先順位を決められていない。 ・「重点事業」は聖域化しやすく、ビルドが先、スクラップが後回しになりがち。 ・議会の役割が十分に果たされていないのではないか。	

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

○講義の感想は、「財政危機はお金の問題ではなく、ガバナンスの問題」

・本講義で印象的だったのは、財政危機をお金がないから起きる現象とせず、意思決定と統治の失敗と断じた点である。

・人口減少・少子高齢化、物価高騰といった外的要因は全国共通であり、自治体の説明としては説得力がない話

・一部の自治体では財政危機宣言に至るが、誰も優先順位を決めなかったこと、誰も責任を受けなかったことにあるという指摘は極めて印象が残った。

○予算は「数字」ではなくビジョンを語るもの。

○「何を削るか」ではなく何を残すか。

○財政健全化は目的ではなく、政策推進の手段であることを認識する。

調査・研修の成果・考察

（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）

1月27日の講義 ●議会の役割が厳しく問われる講義だった。

①本研修は、財政課職員向けというよりも、むしろ議員にとって厳しい自己点検の内容であった。

・財政危機に陥った自治体において、議会は本当にその役割を果たしてきたのかという問いを突き付けられた。

・自分の関心分野の予算だけを注視することで、総論賛成各論要望にしてこなかったのか。

・研修を通じて、議会が予算をチェックしているつもりになっていないかを省みる必要性を感じた。

②予算を踏まえた考察、問われるのは「何に挑戦する市なのか」

・瀬戸市においても、講義で指摘された構図は決して他人事ではない。

・人件費・扶助費・公債費といった義務的経費の増加。

・人口減少下での税収の伸び悩みと、経常経費を基金繰入で賄う構造への依存。

・これらは、財政が厳しいのではなく、新しい政策に使えるお金が失われている状態であるが、ここから先である。

③瀬戸市は「何をやりたい自治体」なのかわからない。

・やりたい未来像が曖昧なままでは、見直しもできないし、財政健全化のためという抽象論では、現場の抵抗も、市民の理解も超えられない。

・総合計画・市政方針に照らしたとき、政治判断＝優先順位付けが、今後の予算審議で問われる。

④ビルド&スクラップが機能しているのか。

・予算編成・事業見直しの実態を見ると、スクラップが先行し、ビルドが後追いになるが、重点事業はある意味、聖域化され、見直し対象から外れる。

・やるべき事業を明確にして、ビルドし、優先順位の低い事業を理由を示してスク

ラップする。

- ・削減ありきの議論では、市民の納得も未来への投資も生まれない。

⑤瀬戸市は、これから何に挑戦する自治体なのか。

- ・人口減少下でも守るべきものは何か。

・10年後、20年後の市民に、何を約束するのかを定まらなければ、財政健全化も事業見直しも市民理解も、場当たりのようになっていく恐れがある。

○まとめ

瀬戸市の課題は、お金がないことではない。政策の優先順位を誰が決めるのか、未来像をどこまで共有できていくのか。という意味決定と統治の問題であると考えられる。だからこそ予算審議の場は、削減の是非ではなく、未来を選ぶかを問う場であればならない。瀬戸市の現状から導かれる課題だと言える。 以上

1月28日の講義 ●なぜ事業の廃止・縮小は進まないのか。

①財政問題の本質は単なる財源不足ではなく、収入の範囲で支出を組むという原則が守られてこなかった結果、基金取崩しや臨時財政対策債への依存が続いていたが、将来の負担先送りしかない。

・現場の抵抗と、首長の腰砕け（人気・選挙）と、市民の反発への過度な忖度が大きく影響を及ぼしてきたのではないか。

・本質的理由として、市民が受益と負担、財源制約を理解していないため、無自覚・無理解・無責任をある意味放置してきたが、行政と議会の説明責任の不履行が挙げられる。

- ・自治体は、資金繰りのため借金（運転資金借入）は出来ない。

②財政悪化は、誰がこうしたのかという問いを考える。

・「財政危機の原因はシンプル」で、収入の範囲で支出を組むという唯一のルールを守らなかったことに問題がある。

ただし、批判は簡単だが、本当はどうすべきであったのかを示すことをしてこなかった議会の責任に問題が潜んでいるのではないのか。

③なぜ止められなかったのか。

・3つのなぜ。①なぜ収入の範囲に抑えられなかったのか。②なぜ誰も気がつかなかったのか。③なぜ気づいても止められなかったのか。・・・避けていた、逃げていた。しょうがないと思っていた。

④足りないのは「財源」ではない。

本当に足りないものは、規律・判断基準・組織としての自律性が重要である。

そのため、目指すべき姿は、市民の幸福を最大化する市政運営である。

⑤夕張市に学ぶ

・他人事にしないで、夕張市で起きた問題は、収支不足を不適正な会計処理で粉飾した。問題の先送りが破綻を決定づけたのが問題である。

- ・国は、放漫経営した自治体を救済しない。結果、そのツケは、市民が負担するこ

とになる。

⑥国の誘導施策を疑う視点は・・・

・国は、交付税措置・補助金・特例起債を使って地方を誘導するが、国が言うから正しいではない。

・問うべき視点は、本当に市に必要なのか、持続可能な事業か、将来世代にツケを回さないかの視点が必要。

⑦国と地方のかたちが変わる。

●給食費無償化の議論で分かったこと。

・給食費無償化の議論は、一見すると「子育て支援の是非」という政策判断に見える。しかし、本研修を通じて明らかになったのは、これは国と地方の役割分担、そして、自治体の統治能力そのものを問う議論であるという点である。

給食費無償化を国が制度として担保するのか、自治体が独自施策として実施するのか。この違いは単なる財源論ではなく、誰が責任を持つのか、誰が説明責任を負うのかという統治の問題であることを知った。

・給食費無償化を地方の工夫や首長の判断だけに委ねる構造は、結果として、財源の不安定化、自治体間競争の激化、将来世代への負担転嫁を招く恐れを予測しておくことを明確になった。

⑧地方自治体と議会にできること

・行政ができることは、国の制度が未整備な段階で、安易に恒久施策化しないこと。また、臨時財源（ふるさと納税）を恒常経費に充てないこと。できるではなく、続けられるかを基準に判断する。

議会ができること。

・財源の持続可能性を問い続けることや、賛成か反対かではなく、誰が、いつまでに、どの責任で支えるのかを明らかにさせる。

・市民に対し、受益と負担の関係を丁寧に説明すること。議会はブレーキ役であると同時に、現実を言語化する最後の砦であることを認識しなければならない。

⑨本研修を受講しての率直な感想

・本研修は、財政技術や制度解説にとどまらず、自治体経営とは何か。議会とは何をすべき存在かを根本から問い直す内容であった。

・財政危機はお金の問題ではなく、ガバナンスの問題である。有利な制度ほど、その裏側を疑え。そして、市民の無理解を生んできたのは、説明を怠ってきた議会である。

⑩結び

財政とは、選択の積み重ねであり、その選択の結果責任を誰が負うのかという問題である。本研修は、「何をやるか」よりも「何を引き受ける覚悟があるのか」を問い直す機会となった。この視点を、今後の議会で活かしていきたい。 以上

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
8 年	尾張瀬戸	名鉄	片道	大曾根	16	km	460	円	円
	大曾根	JR	片道	名古屋	9.8	km	6,380	円	円
	名古屋	新幹線	片道	東京	366	km		円	4,720 円
1 月						km		円	円
						km		円	円
27 日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	カプセルホテル新宿510				03-3200-6151		3,366 円		
備考欄									

14,926 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
8 年	東京	新幹線	片道	名古屋	366	km	6,380	円	4,720 円
	名古屋	JR	片道	大曾根	9.8	km		円	円
	大曾根	名鉄	片道	尾張瀬戸	16	km	460	円	円
1 月						km		円	円
						km		円	円
28 日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									

小計 11,560 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
年 月						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									

パック等による割引など

小計 0 円

宿泊費 合計

交通費 合計

3,366 円

23,120 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

26,486 円